

## 平成28年度 研究評価報告書【水産試験場】

### 1 概要

試験・研究開発の一層の効率化と研究ニーズに即応した新技術の早期開発を図るため、「福井県農林水産試験研究評価実施要領」および「福井県農林水産業活性化支援研究評価会議設置要領」に基づき、研究課題の選定、進捗状況および進行管理、研究成果および研究終了後の成果の普及状況等について検討・判断された。

(1) 開催日時 平成28年8月30日 9時30分～12時00分

(2) 開催場所 嶺南振興局二州合同庁舎2階大会議室

(3) 評価会議出席者

#### ① 評価委員

本多 仁 国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 所長

宮台 俊明 福井県立大学海洋生物資源学部 学部長

下亟 忠彦 福井県海水養魚協会 会長

齊藤 洋一 福井県信用漁業協同組合連合会 代表理事会長

子末とし子 福井県漁協女性部連合協議会 会長

岡本 吉央 福井県農林水産部食料産業振興課 課長

松崎 雅之 福井県農林水産部技幹（水産課長）

#### ② 水産試験場

杉本剛土場長、木下仁徳栽培漁業センター所長、岩谷芳自内水面総合センター所長  
および関係職員

### 2 評価範囲

(1) 中間評価課題

- ・新魚種（ハタ類）養殖用種苗生産技術の開発

(2) 事後評価課題

- ・ズワイガニ資源増大対策事業
- ・元気なふくいアユ種苗生産技術開発事業

(3) 追跡評価課題

- ・アオリイカの養殖に関する研究

### 3 評価結果

課題評価は、研究課題ごとに担当者から研究の背景、目的、内容、実施方法および成果などについて説明を行った後、委員との質疑応答により評価を受けた。

各研究課題について、次の評価項目ごとにA～Eの5段階で評価し、その平均を総合評価とし、さらに指導、意見をコメントとして受けた。

総合評価は、中間評価はB：1課題、事後評価はB：2課題、追跡評価はB：1課題であった。研究課題別の詳細は、研究課題別評価結果に記載し、今後の研究開発の推進、成果の普及方法等に活用する。

### 3 研究課題別評価結果

#### (1) 中間評価

1	研究課題	新魚種（ハタ類）養殖用種苗生産技術の開発	総合 評価	B
	研究期間	平成26年度～平成30年度		
	研究目的 および必要性	養殖魚の新魚種開発として、市場性の高い「マハタ」養殖技術を開発するため、越冬後の大型種苗生産技術の確立により低水温対策と養殖期間の短縮を図る。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉鎖循環システムのコスト面なども含めた実用化に向けて、さらなる努力を期待したい。</li> <li>・マハタはフグに続く冬の風物として、観光客を呼ぶ食材となる。ブランド化に向けた行政や漁業者との連携を密に図ってほしい。</li> <li>・トラウトサーモンに続く、新魚種としてマハタへの期待は大きく研究の必要性は絶大である。</li> <li>・現状で、非常に良好な成果が上がっていると見込まれるので、引き続き、研究を進めてほしい。</li> </ul>		

#### (2) 事後評価

1	研究課題	ズワイガニ資源増大対策事業	総合 評価	B
	研究期間	平成24年度～平成27年度		
	研究目的 および必要性	ズワイガニの好漁場の海底環境と漁場形成との関係を明らかにし、好漁場形成要因を解明する。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状調査に基づいた対応が望まれる。</li> <li>・ズワイガニ漁場マップはわかりやすい形での成果情報であり、漁業者が求める情報として必要性が高い。</li> <li>・漁礁の効果の検証や保護効果を考慮した増殖効果の検討も必要。</li> <li>・本事業を前倒しで終了し、次の事業に結び付けたことは評価できる。</li> <li>・保護礁の造成の仕方を考えるべきである。泥地で沈下する場所は沈没船を設置したらよい。</li> <li>・県の観光資源 No1 の越前がにについての研究であり、今後の資源保護、増殖の技術開発につながる。大いに期待が持てる研究である。</li> <li>・福井の重要な資源である越前がにの資源回復を図るため、今回の試験で求められた結果をしっかりと活用して対策をとってほしい。</li> </ul>		

2	研究課題	元気なふくいアユ種苗生産技術開発事業	総合 評価	B
	研究期間	平成25年度～平成27年度		
	研究目的 および必要性	良い形質（友釣りしやすい）アユ種苗の生産技術を確立する。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い形質をもつF1の生産技術開発に見通しがつき、具体的な親魚養成の計画を確立したことにより生産計画の目途が立ったことは評価できる。</li> <li>・釣り人のニーズに合ったF1が県内の河川に多く放流されれば遊漁者の増加につながることから、今後の計画実行と普及、広報活動に期待したい。</li> <li>・釣り人は大型ほど喜ぶと思うので、大型育種を目指すが良い。</li> <li>・内水面の最重要魚種に対する研究であり、今後の遊漁対策に活用できる技術を開発した成果は大</li> </ul>		

### (3) 追跡評価

1	研究課題	アオリイカの養殖に関する研究	総合 評価	B
	研究期間	平成19年度～平成23年度		
	研究目的 および必要性	市場価値の高い大型のアオリイカを短期間で育成するための養殖技術を確立する。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場価値の低い小型の天然アオリイカが短期間飼育で高い価値の商品化の可能性を示したことは、漁業収入の増加、観光客の周年誘客の促進などに有効な技術として現地効果は高い。</li> <li>・天然小型アオリイカの確保や天然親アオリイカの確保を図ることと、天然アオリイカ資源の適切な利用・管理を図ることがバランスよく実施できるよう、関係漁業者（養殖漁業者と天然資源を漁獲している漁業者等）が十分に合意形成した上で取組を進めることが肝要と考える。</li> <li>・上記の観点からも、人工種苗の安定供給のための技術開発についても、引き続き取り組むことが求められると考える。これはあくまで理想像であるが、御一考をお願いしたい。</li> <li>・種苗生産が課題。</li> <li>・手軽なエサの開発が重要</li> <li>・短期間で成長するアオリイカが漁家民宿等に広く普及されるように。</li> <li>・本研究の成果としてまとめた養殖マニュアルが、養殖漁家に活用され、アオリイカ養殖の取組数、生産量が増加し、若狭町の看板料理となるなど経済的、観光面においても大いに貢献しており高く評価する。</li> <li>・引き続き、研究成果の普及に努めてほしい。</li> </ul>		